

K O Σ M O Σ

2012

No.153
創立125周年記念号

C O N T E N T S

P2 〈特集〉

125周年のいま、 すすめたい この1冊!

～東洋大学のキーマンが
すすめるこの1冊～

P4 新館長・新副館長紹介 &

創立125周年のいま、すすめたいこの1冊!

P5 貴重書の紹介～『大日本物産圖會』～

P5 創立125周年特別展示のご案内

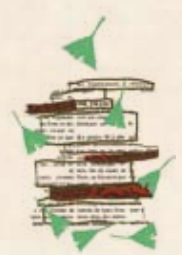
P6 各キャンパス図書館イベント案内

P8 図書館用語集





125周年のいま、 すすめたいこの1冊！ ～東洋大学のキーマンがすすめるこの1冊～



哲学 教育

「教師」『初期哲学論集 2』
アウグスティヌス 著
茂泉昭男 訳 教文館
所蔵館 白山 川越 朝霞
ISBN：476423002X

アウグスティヌスの『教師論』を紹介する。日本語訳で手に入るのは『アウグスティヌス著作集 2 初期哲学論集 (2)』教文館 1979 年茂泉昭男訳だけのようである。この本の中では『教師』という題名になっている。原題は *De Magistro*、そのまま翻訳すれば『教師について』ということになる。アウグスティヌス (Aurelius Augustinus) は 354 年に北アフリカのタガステというところで生まれ、430 年にヒッポでなくなる。若い頃にはマニ教に強い影響を受け、後にミラノでキリスト教に回心する。その次第は彼の『告白』(Confessiones) に記されている。この書物の翻訳は岩波文庫にも、上記『アウグスティヌス著作集』にも収録されている。まさしく彼の魂の旅路が記述されている。ぜひ手にとってもらいたい。

しかし、今は『教師論』の方を紹介する。その理由はここに「教える」ということの真髄が記されているからである。もちろんこの書はキリスト教という一つの宗教的立場の上に立って書かれている。そのことを気にしないで読んでも十分得るところは多く大きい。この書物は親であるアウグスティヌスと息子との対話として書かれている。この書の掉尾近くには次の一節が見出される。「教師が何を考えているのかを学

今年、創立 125 周年を迎えた東洋大学では、「哲学教育」、「国際化」、「キャリア教育」の 3 つをキーワードに、独自のプログラムを用意し、学力と人間力を兼ね備えた人材の育成に取り組んでいます。

そこで、今回の特集では、この 3 つのキーワードに係わる取り組みを中心的にリードしている方々に、各キーワードについてより良く理解するための 1 冊を紹介していただきました。「哲学教育」では「自分なりのものの見方・考え方」を持つことの重要性、「国際化」では外国語力にとどまらない真の


「国際社会人基礎力」とは何か、「キャリア教育」では何故、大学時代に「キャリア」について考え、その準備をする必要があるのか、それらの答えを見つけるきっかけが、きっと紹介する本の中にあるはずです。

これらの図書を通して、学問知識のみならず、現代社会で求められる問題発見能力や解決能力、リーダーシップ、チームワーク、協調性などの「人間力」を養うための道筋が見えてくる機会となることでしょう。

ぶために、自分の子供を学校に送るほど愚かしく好奇心の強い人がいるであろうか」(13, 45)。「教育」とは「教える」ことではなく自ら「学ぶ」ことなのである。自らの内に抱え込んでいるのは、マルブランジュの言うように「闇」である。その闇である自分の心のなかを不用意に覗き込んではいけない。心の病の萌芽を育てることになるからである。しかし、この闇に光が投げられるならば、目眩く煌きの進む宝庫であることがわかる。随意に 10 桁の数を挙げてみよ。次に、また 12 桁の数を挙げてみよ。しかる後に乗法を適用してみよ。最後にその計算結果にいつどこで出会ったことがあるのか反省してみよ。どこで教えられたか言うことができるか。否、2 と 3 の加法の結果についてでも同断である。我々にはあたかも思い出すかのように答が知られる。学ぶということはそのように自らの心の奥底から真理を引き出すことである。教えるとは、学ぶ者に何かを与えるのではなく、学ぶ者が引き出すのを助けることである。教えて型に嵌めようとすることは教える者が自らの奴隷を作ろうとする試みである。しかし、この疊感的試行はけっして埒りをもたらさない。教える者自らが食い破られる野獣を育てるだけである。

「哲学教育」は教育のなかの教育である。カントに擬えるならば哲学

に関する知識を教えることは容易である。しかし、「哲学すること」を教えることはできない。なぜならば、それは自ら思考することだからである。このときに優れた教師のできることはソクラテスの言う「産婆術」の行使である。学ぶ者が自らの心の内奥から真理を引き出してくるの助けをする。それが「哲学する」ことを「教えようとする」者の為すべきことである。アウグスティヌスの『教師論』にはそのことがよく記されている。



村上 勝三(ムラカミ カツノ)
東洋大学 国際哲学研究センター センター長
文学部 哲学科 教授

専門：西洋近世哲学。特にデカルト哲学専門
著書等：『デカルト形而上学の成立』(勁草書房)
『観念と存在』(知泉書館)
『数学あるいは存在の重み』(知泉書館)
『新デカルト的省察』(知泉書館)
『感覚する人とその物理学』(知泉書館) 他



国際化

『国際日本の
将来を考えて』(絶版)
松本重治 著
松山幸雄 聞き手
小池民男 構成 朝日新聞社
所蔵館 白山
ISBN：4022558156

^{しげはる}
松本重治 (1899～1989) を知っているだろうか。同氏は戦前に東大や欧米の大学に学び、国際ジャーナリストとして活躍した後、近衛文相のブレーンとして日米開戦を回避すべく奔走した人物である。戦後は、財団法人国際文化会館の設立 (1952 年) に関わり、1989 年に 89 歳で亡くなるまで、日本の国際交流の草分け的存在として活躍している。私事になるが、松本氏は私が国際交流の仕事に関わるきっかけとなった人で、同氏の晩年には国際文化会館で働く機会に恵まれた。

本書は、朝日新聞に連載された同名タイトルのインタビュー記事をまとめて、松本氏が亡くなる前年の 1988 年に出版されたもので、日本人がこれから国際社会の中でどう歩んでいくべきかを様々な角度から語っている。

1988 年といえば、日本社会はバブル経済に湧いていた一方で、世界はまだ東西冷戦期であり、中国の天安門事件も東欧の民主化もソ連の崩壊も、すべて本書出版の数年後に起きた出来事である。しかし世界史の大きな転換期を経た今でも、松本氏の言葉は新鮮さを失っていない。

国際文化会館は、創立当初から日米を中心とした文化・学術交流事業に携わっていたが、そのみならず、欧州をはじめ、社会主義国のソ

連や中国、インドや東南アジア諸国とも積極的に交流していた。中でも、第二次大戦での敗戦による世界からの孤立、特に知的な孤立を乗り越えようと、海外との知識人の交流に注力した。英国の歴史学者 A・トインビーや、米国の社会学者 D・リースマン、インドのネール首相といった人々が同会館の招きで来日している。


長年国際交流に尽力してきた松本氏が語る言葉は、経験に裏付けられていて説得力と重みがある。特に、これから国際的に活躍しようとする若い人々を念頭に語られていて、読みやすい文章となっている。

「歴史感覚と国際感覚を忘れるな」「ペラペラより知的討論のできる語学力を」「外国の言葉、文化、生活を愛情を持って理解し、そのうえで自分のこと、日本のことを考えてみよ」「どんどん海外に出て、働き、現地の人の中に入って生活せよ」等々。最後に、恩師であった新渡戸稲造 (国際連盟事務次長) から直接教えてもらったこととして、sense of proportion と grasp of things を挙げている。つまり、物事の重要な側面とそうでない側面を正しく認識すること、また、複雑な問題に接したら問題の核心をつかむことである。そして、「そういう努力をする若い人たちがたくさん出るようになれば、国際日本の将来は明るくなる

ものと確信しています」と結んでいる。

生前松本氏はよく「国際交流は人に始まり人に終わる」と語っていた。国際交流は詰まるところ、それに関わる「人」が最も重要なのである。どの国の人であれ、尊敬をもって接し、その人の考えや生き様から学ぶこと、そして心と心の通い合うような友人をつくること—これこそ国際社会で生きる私たちの基本ではないだろうか。

(絶版本で申し訳ありませんが、図書館で借りるか、中古本を購入するなどして読んでみてください。)



丸山 勇(マルヤマ イサム)
国際化推進室 室長

世界に通用する人材の育成を目指す本学の国際化推進のため、平成 23 年度に外部から登用され、国際交流センター事務室から改組された国際化推進室において豊富な経験に基づき業務を行う傍ら、本学を訪れる海外の大学関係者や学生、留学を希望する本学学生と接しつつ、グローバルな視野と能力をもった学生の育成に取り組んでいる。(前職は、東京財団人材育成プログラム・オフィサー。世界数十か国の大学と協力し、奨学金プログラムを通じて将来のリーダーを育成するための各種業務に従事。)



キャリア 教育

『キャリアデザイン入門 [I]
基礎力編&[II] 専門力編
(日経文庫)』
大久保幸夫 著 日本経済新聞社
所蔵館 白山 板倉
ISBN：
[I] 基礎力編 9784532110963
[II] 専門力編 9784532110970

本書は、この領域における第一人者のひとりによって著された、いわゆる入門書です。一般的な図書の推薦文は、この辺りから著書の内容説明に入るのが普通ですが、趣向を変えたいと思います。最近では日本の大学でも見かけるようになりましたが、欧米の大学では、随分昔から学部・大学院のカリキュラムの最初に「レポートの書き方」の授業が必ず配置されています。もとより、レポートを書き上げる実質的な力は、個々の講義や演習で与えられるレポート課題に対応することで磨かれ、このようにして学生たちは多様なテーマに対するレポート作成能力を身につけます。当然のことながら、この「レポートの書き方」の授業を履修しても、レポート作成能力が直ちに向上する訳ではありません。しかし、「レポートを書く」という行為について<俯瞰(ふかん)>することが可能になり、その後に与えられる多様なレポート課題への対応能力を高めることに繋がります。


この事実が、「キャリアデザイン」あるいは「キャリアデベロップメント」について学ぶことの価値を表しています。例えば、ゼミナールで学ぶということは、ただ専門知識を吸収するだけではなく、ゼミ発表の機会を通じて自分のジェネラル・スキルとしてのプレゼンテーション能

力を向上させることに繋がります。実は、多くの講義、演習は固有知識の習得機会であるのももちろんのこと、このようなジェネラル・スキルの向上を可能にする場でもあるのです。学びの「場」である大学は、社会人になってから直面する多様な可能性に対応できる基礎力を身につける「場」でもあります。今現在、自分が置かれている状況と人生全体の関係を<俯瞰(ふかん)>すること、これが「キャリアデザイン」あるいは「キャリアデベロップメント」について学ぶということです。

著者は、「キャリアには、職務経歴という客観的側面と、仕事に対する自己イメージという主観的側面とがある。この二つを形成するために内省と行動を繰り返すこと」がキャリアデザインであると述べています。世の中には「高い収入」、「多くの資格」、「早い出世」、「名誉ある地位」などを手にしていても、仕事に対して自分が活かされているという実感を持てずに苦しんでいる人もいます。成功しているキャリアとは、自分自身が納得し、自分が活かされていることを実感し、幸福感を感じている状態です。

タイトルの「キャリアデザイン」あるいは「キャリアデベロップメント」に強い関心を持つ学生、この言葉が少しばかり気になっている学生

の何れが読んでも、著者の意図するところがシンプルに直截的に解説されていることを実感するでしょう。本書が部数を伸ばし続けているのは、入門書とは名ばかりで解りにくい、あるいは読み易いのが得るものが少ない他の入門書とは一線を画しているからです。本書を、学生の皆さんに推薦いたします。



佐々木 啓介(ササキ ケイスケ)
東洋大学 副学長
経済学部 経済学科 教授

専門：応用経済学
研究テーマ等：開発ミクロ経済学、ミクロ金融論、新国際貿易理論、人的資本の経済分析、流通経済論 他
著書等：『投資不確実性下の非営利組織と情報共有』(地域経済学研究 第 41 巻(2012))

新館長・新副館長紹介& 「創立125周年のいま、すすめたいこの1冊！」

2012年4月より、新しく館長、副館長(白山図書館)に就任した先生方をご紹介します。

また、本号での特集「創立125周年のいま、すすめたいこの1冊！」とリンクし、新館長、新副館長から創立125周年を迎えた東洋大学の3つのキーワード「哲学教育」、「国際化」、「キャリア教育」をもとに図書の推薦をしていただきました。



『新・日本の経営』

ジェームス・C・アベグレン 著
山岡 洋一 訳 日本経済新聞社

所蔵館 白山

ISBN: 9784532311889

新学季を迎え、この4月より、図書館長に就任することになりました。図書館長として東洋大学の図書館が、学問という知的財産をベースにした教育・研究活動の支援に積極的に尽力したいと考えております。昨年3月11日に発生した東日本震災および原発事故以来、日本の社会は新たな変動の流れのなかに置かれました。世界の国々においても、とくに政治、社会、経済および経営の面で重大な変革を余儀なくされ、21世紀の社会は、新しい環境に適応できる哲学・理念・思想が求められているといえます。

このような環境のもとで、われわれは各人が専攻する学問について、新しい視点から見つめ直し、21世紀の学問として展開していかなければなりません。われわれが専門とし、研究を進めている経営学

では、現代経営者の経営理念・経営哲学が今日あらためて問われることになりました。現代の経営者は、経営体と一体となって活動する主体として、重要な役割を演じているからです。また経営のグローバル化は、第一義的に世界の人々の富の創造にも寄与して行かなければなりません。そのためにわれわれは、日本型経営を世界に発信することによって貢献することです。

創立125周年の東洋大学から発信するキーワードは、①「哲学教育」、②「国際化」、③「キャリア教育」であります。この三つのテーマと関連をもち、経営学を専門とする学生はもちろんのこと、その他の学問を専門とする皆さんに、日本の経営を考えるうえで、次の書物を推薦したいと思います。

その一冊は、ジェームス・C・アベグレン(2004)『新・日本の経営』日本経済新聞社であります。著者のアベグレンは、研究者、経営コンサルタントとして、50年にわたって、日本企業の経営を考察してきた人物であります。アベグレンは、1958年に出版した『日本の経営』ダイヤモンド社において日本の経営の特徴として、①終身の関係(いわゆる終身雇用制)、②年功序列制、③企業内組合を、初めて指摘した点については、周知の事実であります。これらを確認する諸点は、その後の日本の経営を議論するうえでの基本となり、経営実践では、日本企業はアメリカのマネジメントを導入し、日本の企業文化を含め実践した経営を日本の経営論として展開してきたのであります。経営の国際化(グローバル化)はま

すますます強くなってまいります。本書は、まず日本の経営はどのような展開を遂げ、現在、何が問題となっているのかをわれわれに伝えています。現代の経営社会でわれわれが生き延びていくためには、各人のキャリア開発が求められているということです。

最後に、それぞれの専門分野でプロフェッショナルとして活躍できる皆さんの能力開発のために図書館の利用が高まることを祈念して、図書館長就任の挨拶といたします。



東洋大学附属図書館 館長
小椋 康宏(オグラ ヤスヒロ)
経営学部 経営学科 教授

専攻・専門分野・所属学会等：
経営学・経営財務論
日本マネジメント学会(常任理事) 日本経営学会(理事)
日本経営財務研究学会等に所属
著書等：『新版 経営学原理』共著 2010(学文社)
『マネジメント・プロフェッショナルの理念と育成』
『経営教育研究』2008 日本経営教育学会、第11巻、
第1号、pp.1-13。
『企業価値創造と現代経営者の経営理念』
『経営力創成研究』2011 第7号、
東洋大学経営力創成研究センター、pp.57-70。



『旅する巨人：宮本常一と渋沢敬三』

佐野 眞一 著
文藝春秋

所蔵館 白山 川越 朝霞

ISBN: 4163523103

白山図書館の建物の歴史は私が見てきただけで三期に区分できる。昭和40年代にはツタの絡まる校舎など複数の校舎に分かれて部屋が在った。その次には、東洋大学創立80周年を記念して独立の建物をもった。そして現在にいたって高層棟の一部、低層階に図書館が入った。私はこの間ずっと図書館から恩恵を受けてきたが、このたび白山副館長を引き受けることとなり、恩返しをする立場となった。長年一貫していた利用者としてのアイデンティティを改めることとなった。

利用中でいた時に訴えていた大学図書館に対する注文のあれこれを封印する事のないように、館の

状況をよく把握して活路を提案できるように、伝統的に社会調査を特徴としてきた東洋の社会学部の者として、先ずは足もとの利用者のニーズなどから見ていかなばと考える。

哲学するにしても、国際化するにしても、先達はあらまほしきことなりで、図書館には文字通り万卷の書が在り、先人の足跡がある。書庫で渉猟し、読書尚友、先人を友として、その道を追い、新たな道を拓くとか、その志を継ぎ、先を行くとか、大いに利用していただきたい。読者孤独に迷い続けるだけではパワーが足りない。尚友先人と合体し変身してこそ、それまでの自分ではない力を備えた自分がそこにいる。ネット情報だけで変身できないと考える。

私の推薦書、佐野眞一『旅する巨人』(文藝春秋、1996)は全国を旅した民俗学者・宮本常一と、財界人であり民俗学者だった渋沢敬三の二人の伝記である。1961年6月、東洋大学は渋沢敬三に名誉文学博士号を授与し、同年12月には宮本常一に文学博士号を授与している。渋沢敬三は1963年10月に67歳で病没したが、東洋大学では2年後の1965年10月に『渋沢敬三先生景仰録』(渋沢敬三先生景仰録編集委員会編)を刊行した。東洋大学の経営が傾いたときに渋沢が救援してくれた恩に報いた形であった。2013年は渋沢敬三没後50年となる。ぜひ白山図書館で追悼展示の企画提案をしたいと思う。

大学教員になったのは58歳になって初めてとい

う宮本常一の周りには、大学を卒業しても就職しない若者がいつも多くいた。宮本の傍で、宮本から尽きることない農山漁村の人々の生活に関する話を聞いていた若者たちの中から、次々と日本、世界へ向けて自らも旅に出てフィールドワークに明け暮れ、その後、業績を著した人たちが大勢いる。宮本からのタスキをつないだのである。

あなたも先人の誰かを尚友として、パワーを引き継いではいかがでしょうか？



東洋大学附属図書館 白山図書館副館長
松本 誠一(マツモト セイイチ)
社会学部 社会文化システム学科 教授

専門：人類学・韓国研究
著書等：翻訳書『韓国の郷土信仰』(張善根著、第一書房)
共著書『文化人類学の視角』(犀書房)、
『文化人類学ノート』(犀書房) 他

貴重書の紹介～『大日本物産圖會』～



必見！貴重資料紹介 ～『大日本物産圖會』～

『大日本物産圖會』は、1877(明治10)年に開かれた第1回内国勸業博覧会の土産物として売り出されたシリーズものの錦絵(浮世絵)で、作者は三代歌川広重(俗称安藤徳兵衛、1842-94)である。その目的は全国各地の伝統的な産業・特産物を紹介することであり、約120図の存在が確認されている。本図書館では、そのうち109図を所蔵している。発行者の大倉孫兵衛(1843-1921)は、現在のノリタケカンパニーリミテドの創業に関わるなど、日本の陶磁器業の近代化に貢献した起業家として著名である。内国勸業博覧会は明治政府の殖産興業政策の一環として、西洋文明の成果を紹介するという啓蒙的な役割を担っていたが、これに対応して販売された『大日本物産圖會』には、日本の伝統的な物産の有用性を再認識させ、殖産興業政策への幅広い参加を国民に促す意図が込められていた。江戸時代の物産図などから盗用した作画が混ざっているものの、産業の近代化には、西洋文明の導入はもとより、全国至るところでほとんど江戸時代そのままの姿で存続している伝統産業の発展―〈伝統〉と〈近代〉の調和融合―もまた不可欠なことを国民に訴えている点で、明治時代の殖産興業の内実を知る重要な史料といえる。上に掲げた「加賀



国笠ヲ造ル図」では、金沢の特産物の菅笠の製造販売店を取り上げている。画面右端にただずむ男性は、和服姿ながらも洋傘と鞆を持ち、帽子と革靴を身につけている。文明開化の風潮に敏感な人物が菅笠店の前でふと足を止めて見入るという構図に、〈伝統〉の価値を再認識させようする意図が表されていることは説明するまでもない。

紹介者プロフィール

藤井 信幸(フジイ ノブユキ)

経済学部 国際経済学科 教授

専門：日本経済史。現在は日本の地域開発と公共投資が研究テーマ。

著書：『地域開発の来歴』(日本経済評論社)、『テレコムの世界史』(勁草書房)、
『池田勇人』(ミネルヴァ書房) 他

創立125周年特別展示のご案内

創立125周年を記念し、学外にて特別展示を実施いたします。
普段閲覧できない貴重書など、本学所蔵の資料を展示いたします。
ぜひ、お越しください。

展示タイトル『存在の謎に挑む 哲学者・井上円了』

日時：2012年5月30日(水)～6月5日(火)

9：00～21：00(初日は10：00開場、最終日は16：00閉場)(入場無料)

会場：丸善 丸の内本店(丸の内OAZO)4階ギャラリー

展示構成

- 第1章 学祖井上円了の目指したもの―哲学と教育に捧げた生涯―
- 第2章 不思議庵主人・円了―迷信打破の黎明―
- 第3章 東洋大学の「知」の資産―貴重古典籍への誘い―



講演会



2012年6月3日(日)〈聴講無料・要事前申込〉※申込みはホームページにて
丸善 丸の内本店 3階 日経セミナールーム

■13：00～14：00 講演A 「井上円了と勝海舟―時代を創った男たち―」
三浦節夫氏(東洋大学ライフデザイン学部教授)

■15：00～16：00 講演B 「百人一首の裾野のひろがり」 神作光一氏(東洋大学名誉教授)

各キャンパス図書館イベント案内

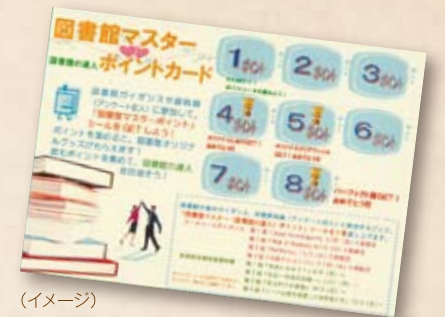
東洋大学にはキャンパスごとに図書館があり、キャンパスに設置された学部の専門分野に合わせた蔵書があります。また、館内のPCでインターネットの閲覧や契約データベースによる情報検索、視聴覚資料の利用など、各種施設・サービスを利用できます。

『イベントに参加して
グッズをゲットしよう!!』

図書館では「図書館マスターポイントカード」を配布しております。図書館で行うイベント（ガイダンス・所蔵展示等）に参加するとポイントシールがもらえます。集めたポイントに応じて図書館グッズを差し上げます。ぜひ、ご参加ください。

※イベント日程等の最新情報は、図書館ホームページ・館内掲示でお知らせいたします。

(イメージ)



白山図書館(第2キャンパス含む)

白山図書館では文系を中心に多様な資料を所蔵しています。ぜひご利用下さい。



(所蔵資料展の様子)

■新入生ガイダンス(4月)

新入生対象のガイダンスです。図書館の施設・サービスをご紹介します。

■授業別ガイダンス(5月～6月)

先生の要望に応じて実施するガイダンスです。図書館利用の基本、情報検索の方法など要望に合わせて行ないます。

■データベース活用ガイダンス(7月、11月)

図書館で契約しているデータベースを、外部講師に解説してもらいます。学習・就職活動の情報収集にも役立つ内容です。

■個別申込制ガイダンス(7月、11月)

お一人から参加可能なガイダンスです。申込者の希望に合わせて、実習形式で行ないます。

■所蔵資料展

白山図書館 B1F 展示コーナーでは、テーマをもうけて展示を行っています。展示資料はいずれも図書館所蔵の資料なので、興味のある資料を見つけたら借りてみてください。

■お知らせ

2013(平成25)年4月、国際地域学部・国際地域学研究所と法科大学院の移転に伴い、今年度は大規模な改装と所蔵資料の配置変更が予定されています。ご理解とご協力をお願いいたします。



(メインカウンター)

川越図書館

川越図書館では今年度もさまざまなイベントを実施します。みなさんの積極的な参加をお待ちしております!!



(館内エントランス)

■新入生ガイダンス(4月)

新入生を対象に図書館の利用説明および施設紹介をいたします。

■図書館ツアー(4月)

図書館内各フロア及びコーナーの説明だけでなく、図書館だけしか聞けない話も盛り込んでご案内いたします。

■授業連携ガイダンス(4、5、6、7、10、11、12月)

図書の探し方、雑誌・新聞・学術論文記事の検索方法など情報リテラシー能力を向上させるために授業と連携した形式でのガイダンスを実施しております。

■データベース活用ガイダンス(5、6、7、10、11、12月)

レポート・課題などに大いに役立つデータベースの機能について幅広く、実習形式にて行います。

■個別申込制ガイダンス(随時)

利用者の要望に応じて実施するガイダンスです。カウンター受付にて申し込んでください。

■所蔵資料展

毎年、数回にわたりテーマをもうけて、本学図書館の所蔵資料を広く紹介するため、所蔵資料展を開催しております。



(閲覧席)

朝霞図書館

朝霞図書館では、主に「社会福祉」・「保育」・「スポーツ科学」・「ユニバーサルデザイン」等の分野を中心に所蔵しています。



(第1閲覧室)

■新入生ガイダンス(4月)

新入生を対象に図書館の利用方法や施設紹介をいたします。

■データベース活用ガイダンス(6月、10月)

雑誌・新聞記事の検索方法や論文作成に便利なツールの紹介・使い方、データベースを活用した就職活動に役立つ企業研究の方法など、専門の外部講師を招いてガイダンスを実施します。

■個別申込制ガイダンス(4、5、10、11月)

ひとりでもグループでも参加できます。内容は、図書資料の探し方からデータベースの検索方法など、参加者のニーズにあわせて実習形式のガイダンスを実施します。

■所蔵資料展

毎年、テーマを決めて、大学で所蔵しているいろいろな資料を展示し紹介します。

■新コーナー開設

2011年12月1日より「絵本コーナー」を開設!! 今までの「絵本」は、一般図書と一緒に配架され、また、大型の絵本は別の場所に配架されていましたが、利用しやすさを考慮し、大型本を含めて「絵本コーナー」にまとめて配架しました。是非ご利用ください。



(絵本コーナー)

板倉図書館

今年もやります! 板倉図書館
板倉図書館は、みなさんの知りたいを応援します。



(所蔵資料展の様子)

■新入生ガイダンス

大学図書館では何ができるのか。その魅力をご紹介します。

■図書館ツアー(4月)

大学図書館はすごいらしい! 実習・体験型ツアーに参加してみよう。

■データベース活用ガイダンス(5～7月、10～12月)

生命科学分野・自然科学分野の研究・学習活動のほか、就職活動に役立つデータベースの活用方法をマスター! 講師は専門の外部講師です。

■プライベートグループガイダンス(随時)

ゼミや研究室、仲良しのグループで、ご希望に応じた内容のガイダンスを実施しています。図書館の使い方の基礎から専門資料やデータベースの検索方法など、様々なニーズに応えます。

■所蔵資料展

本学図書館の所蔵資料を広く紹介するため、年に数回、所蔵資料展を開催しています。今年も興味深いテーマで開催します! 乞うご期待!

■レファレンスサービス(インフォメーションカウンター)

図書・雑誌に加え電子ジャーナルやデータベースを駆使してあなたのほしい情報をゲット! そのHow toもバッチリお教えします。

■板倉図書館プレゼンツ 「この100冊」(4～5月)

昨年、板倉図書館が新たに所蔵した図書の中から、利用回数が多かった資料を中心に、図書館スタッフがみなさんにお勧めしたい100冊を厳選! 特設コーナーを設けました。あなたも先輩が読んだ本が気になる?



(ガイダンス風景)

図書館用語集



図書館を利用してあまり馴染みのない用語を耳にすることがありませんか？

そこで東洋大学の図書館でよく使われる用語を紹介します。図書館用語をマスターして、君も図書館を使いこなそう！



ISSN (あいえすえすえぬ)

International Standard Serial Number の略称。国際標準逐次刊行物番号のことで定期刊行物や新聞といった雑誌(逐次刊行物)を識別するために付与される ID 番号のことをさします。書店やインターネットで本を探す時にこの ID を使うと便利です。

ISBN (あいえすびーえぬ)

International Standard Book Number の略称。国際標準図書番号のことで図書を識別するために付与される ID 番号のことをさします。書店やインターネットで本を探す時にこの ID を使うと便利です。

ILL (あいえるえる)

Interlibrary-Loan の略称。東洋大学で所蔵していない資料を他の図書館から借りたり、論文の複写を取り寄せたりするサービス(有料)のこと。OPAC から申込みできます。(初回のみカウンターで手続きが必要)

閲覧 (えつらん)

図書や雑誌・新聞等の内容を調べながら見ること。図書館では、館内で資料を利用することです。

OPAC (おーぱく)

Online Public Access Catalog の略称。図書館の所蔵資料を検索するためのシステムのことで、資料検索以外にも図書の予約・取り寄せ、貸出状況・貸出履歴確認、貸出延長などもできます。

オンラインデータベース (おんらいんでーたべーす)

図書館が契約している新聞・雑誌記事、百科事典、学術論文、法令・判例などさまざまな情報を検索するためのデータベースのこと。学内のネットワークに接続したPCからアクセスができます。



学生リクエスト図書 (がくせいりくえすととしょ)

学習に必要な資料が図書館にない場合、図書館に所蔵するように学生がリクエストできる制度です。カウンターで申し込みができます。

コンソーシアム・協定校 (こんそーしあむ・きょうていこう)

東洋大学附属図書館は他大学図書館と相互協力の協定を結び、コンソーシアムを形成しています。本学の学生・教職員は、コンソーシアムに加盟している他大学図書館を東洋大学の学生証・身分証明書で利用できます。例えば、山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム。加盟大学は、青山学院・学習院・國學院・法政・明治学院・明治・立教・東洋です。利用条件の詳細は、各大学のホームページをご確認ください。



参考図書 (さんこうとしょ)

辞書、百科事典、年鑑、統計、白書など、調べものををするときに利用する資料のこと。利用は、館内のみとなります。

自動貸出返却装置(ABC)

(じどうかしだしへんきゃくそうち えーびーるー)

受付(カウンター)で手続きしなくても、この装置を使えば、セルフサービスで借りたい図書の貸出・延長・返却の手続きができます(白山図書館は貸出・延長のみ)。未製本雑誌・視聴覚資料は、カウンターで手続きをお願いします。

紹介状 (しょうかいじょう)

本学図書館に所蔵がなく、他大学・他機関の図書館に所蔵がある場合、直接その図書館に出向いて資料を閲覧することができます。その際に本学図書館から発行している書類のこと。希望がある方はカウンターにご相談ください。

資料番号 (しりょうばんごう)

東洋大学図書館資料を特定する本学特有のID番号(バーコード)をさします。OPAC で検索したときに表示されます。

請求記号 (せいきゅうきごう)

図書館で並べられている資料の位置を示す記号のこと。請求記号のラベルは資料の背表紙の下に貼られていますので、このラベルの記号をたよりに資料を探します。図書館の資料は日本十進分類法(NDC)にもとづき分類された記号番号の順番に並べられています。

製本雑誌 (せいほんざっし)

雑誌の破損、散逸などを防止するために、数冊をまとめて綴じて1冊にした雑誌のこと。ちなみに新刊雑誌など製本されていない雑誌のことを「未製本雑誌」といいます。



電子ジャーナル (でんしじゃーなる)

雑誌の電子メディア版。オンラインジャーナルともいう。紙版と電子版の両方で出版されるものもありますが、最近では電子版のみ刊行されるものも増えています。本学が契約している電子ジャーナルは、学内のネットワークに接続したPCからアクセスができます。



配架 (はいか)

新規に受け入れしたり、貸出して返却された図書館資料を書架の元の位置に戻すこと。

パスファインダー (ぱすふあいんだー)

みなさんが図書館を利用するにあたり、ガイド役として知って得する、役立つ情報が紹介されたリーフレットです。テーマごとにありますのでぜひ活用してください。図書館のホームページからも公開しています。



マイクロ資料 (まいくろしりょう)

図書や雑誌などの内容をフィルムに写した資料(マイクロフィルム・マイクロフィッシュ)のこと。これらの資料を閲覧するには専用の装置を使用するため、利用には、カウンターでの手続きが必要です。



レファレンス (れふぁれんす)

探している文献が見つからない、どうやって調べていいかわからないなど困ったときに、図書館のスタッフに相談することができるサービスのことで、レファレンスカウンターにご相談ください。